

令和4年9月7日

## 南の風アカツキジャパン女子日本代表特集号Ⅷ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ラトビア戦を終えて恩塚 HC のコメントです。

リバウンドに課題が残りました。

	第1戦	第2戦
日本	34(OR11,DR23)	35(OR9,DR26)
ラトビア	44(OR8,DR36)	50(OR17,DR33)

DRではボックスアウトの徹底を欠いたことと押し込んで（体を相手に当てて）止めることができなかったことです。相手のセンターやパワーフォワードをしっかりボックスアウトして、他の選手がリバウンドに行くという戦術が上手く機能しませんでした。

ORのコンセプトとしては、相手のボックスアウトをかいくぐりボールゲットするか、ダメな場合はタップし、他の選手が取るということでした。こちらも十分ではありませんでした。結果として、2試合とも2けたの差を付けられてしまいました。ポイントを洗い出し、改善が必要になります。

次にゾーンディフェンスの攻めです。マンツーマンに対してのオフェンスは、状況に応じて適切に判断できる機会が多くなりました。しかしゾーンディフェンスに対しては、クローズアウトが横から来たり、隣からヘジテーションがあったりしたとき判断に迷うというか、『ここで打つべきなのか？』といった感じで処理がうまくいかない場面がありました。本場に向けて即興力が求められます。

3Pシュートについては、当然は入らない時間帯もあるので、ペイントドライブで中を突いてシュートしたり、外に合わせたりしてよりタイミングの良い3Pシュートを狙うようにしたいです。

ディフェンスでは、タイムシェアして全員誰がオンザコートにいても、プレッシャーディフェンスを継続して相手にストレスを与え続け、ミスを誘ったり体力を削ったりすることは機能しているので、本大会に向けてさらに磨きを掛けたいと思います。

ここから実際にゼビオアリーナ仙台で観た私の感想を書きます。第1戦を観戦しました。

このゲームでは、立ち上がりから日本の3Pが決まりず苦労しますが、「空いたら打つ」という原則は徹底されていました。選手全員の意思統一がなされていました。シューターにキックアウトや合わせのパスがきたとき、空いているのに打たないで躊躇したり迷ったりすると、周りのリバウンドに入るタイミングがずれたり、次のプレーが遅れたりして流れが悪くなります。3Pシュートに関しては本大会でも、打ち続けてほしいと思います。

気になったのはゾーンアタックです。第1～2戦を通して、相手がゾーンディフェンスを敷いた場合、地域を守るのでどうしても一旦観察する時間ができてしまい、恩塚 HC が言う『即興力』や『最適解』のチャンスが見つけ難くなります。本番に向けて課題となりました。

さてよいよ2022女子ワールドカップ《9月22日（木）～10月1日（土）》が近づきました。

アカツキジャパン女子日本代表の、金メダル目指した戦いが始まります。パリ五輪への出場権も懸ります。全力で頑張れ！！